

●第68回町村議会議長全国大会（東京都）令和6年11月13日 山本 忠志

本大会の議事の中で、全国の町村の実情に沿って、地方交付税などの一般財源の確保と充実、また真の地方創生の実現のために、要望・決議を確認し一致結束して行動することを誓い合った。この議事進行に先立って多くのご来賓からも祝辞を賜ったが、石破内閣総理大臣からは、「地理的悪条件や財政の厳しさ故の全国と地方の差の解消」「地方創生の基本は産官学金労言の連携だが、あくまでも主役は住民」と言うお話を頂き、地方や住民を大切に思う気持ちを感じ、我が国の総理として誇らしさを感じた。大会終了後の研修会では、中央大学教授・弁護士の「野村修也」氏による講演「地方創生成功の鍵」を拝聴した。がしかし、「SDGs」「AI」「Web」「日本と米国の違い」「若者」「世界のトレンド」など、話が分散して結局何も残らない内容であり、講師の人選に配慮してほしかった。

●令和6年東京都島しょ町村議会議長会第1回臨時総会（東京都）令和6年11月13日
山本 忠志

東京都島しょ町村議長会自治厚労賞受賞者について検討し、大島町の中村佳一氏に決定した。

●令和6年度管外先進町村議会調査（北海道浦幌町・池田町）令和6年11月14～15日
山本 忠志

最初に、浦幌町議会議長より歓迎のご挨拶を頂き、視察側からは都町村議会会長の東亨議長より訪問の挨拶を行った。続いて、事前に提出した質問への回答を中心に、浦幌町議会での議会改革に関する取り組みについての質疑があった。その中で最も印象に残っているのは、議員のなり手不足に取り組む中で、新人議員三名(すべて20～30代女性)の方が述べた、立候補を決意したきっかけである。①議員として拘束される時間が分かって、やれると思った ②生活費などの心配が解消された ③子育てしながらやれるか不安があったが不安が解消し、そのシステムもできていたのでチャレンジした。と言うふうに、地域や先輩議員のアドバイスや激励に背中を押されたことがきっかけと伺い、「なりて不足の本質は地域住民の自治意識の低下や地域民主主義の形骸化にある」ことを実感することが出来た。

翌日は、池田町の葡萄酒研究所を訪ね、その苦労話を伺った。極寒の地でのブドウ栽培と葡萄酒作りへの情熱など、地方の活力が地域を支え、ひいては我が国の活力となることを学ぶことが出来た。

●第42回離島振興市町村議会議長全国大会（東京都）令和6年11月19日 山本 忠志

冒頭の会長挨拶で、①離島の課題は山積しており解決に至っていない ②特措法には期限切れの制約もある ③引き続き一致結束して取り組む必要がある と力強く述べられた。その後、宣言が採択され、各来賓からは、離島振興への協力的な話を伺った。

※令和8年度末で「国境離島特措法」が期限切れとなるので要注意